Junior Red Cross Information 2016

特集1：途上国の子どもたちへ、私たちができること
特集2：防災教育プログラム 子ども×防災

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

まもる いのち ひろめる ほうさい

青少年赤十字指導情報 No.164　日本赤十字社　東京都港区芝大門1丁目1番3号　TEL 03-3437-7082　FAX 03-3432-5507　http://www.jrc.or.jp/

Junior Red Cross Information 2016

TOP MESSAGE

「国際理解・親善」

青少年赤十字全国指導者指導者協議会
会長 増本博宣（ますもと ひろのぶ）
※任期は平成26年4月1日から
平成28年3月31日まで

人は何のために生きるのでしょうか。人は一人では生きていけない→他に支えられながら生かされている→自分も他を生かす力になりたい→誰かを助けることができる自分になりたい。そんな子どもたちを育成することを目指し、「気づき・考え・実行する」の理念を根源として青少年赤十字が存在します。今年度、青少年赤十字教育等支援事業の一環でネパールへ行く機会を得ました。ネパールでは、安全な飲み水を利用できない人が人口の約23%、トイレなどの衛生設備を利用できない人が約54%、学校に通ったことのない人が約60%いるといわれています。このように、現在ネパールでは衛生・教育環境の改善が急務なのです。青少年赤十字では、「1円玉募金」等の資金で教育等支援を行っています。この事業の素晴らしさは、単にお金や物品を贈るだけではないことでしょう。例えば、現地の子どもたちに手の洗い方やトイレの使い方を指導し、その子どもたちが、自分の家や地域で普及活動を行います。子どもたちは、自分の活動が家や地域の生活を向上させていることを誇りに思っています。「私たちは、日本から多くの援助をもらった。次は、自分が周りに喜びを与えたい」。そう話すネパールの子どもたちの目が輝いていました。ネパール大地震の復興を担うのも子どもたちです。「国際理解・親善」をすすめる時、まず、相手を理解することが重要です。次に、ニーズを見極めること。自分に何ができるか、「気づき・考え・実行」し続けることです。

CONTENTS

01 TOP MESSAGE
「国際理解・親善」
青少年赤十字全国指導者指導者協議会　増本博宣
03 特集1 途上国の子どもたちへ、私たちができること
07 特集2 防災教育プログラム 子ども×防災
15 Special Interview
女優 石原さとみ
17 日本縦断！活動紹介
21 青少年赤十字（JRC）とは
22 Column
国際人道法　井上忠男

Junior Red Cross Information
2016.4.1 No.164
青少年赤十字指導情報

COVER-1：Aichi

愛知県 弥富市立十四山東部小学校
伊藤真生（いとうしんせい）先生、山田優空（やまだゆあ）、阿部翔央（あべしょう）、佐藤唯衣（さとうゆい）、
高坂純菜（こうさかじゅんな）、加藤奈々（かとうなな）、西原涼ノ介（にしはらすずのすけ）

※ 本誌の内容は、原則として2016年3月31日時点のものです。

特集1

青少年赤十字
教育等支援事業

途上国の子どもたちへ、私たちができること

～青少年赤十字教育等支援事業～

for
ネパール
モンゴル
バングラデシュ

みんなの想いが海外の子どもたちに届く

安全な水を口にできる、清潔なトイレがある、学校で思う存分勉強ができる――。日本ではそんな当たり前のことが、世界では必ずしも当たり前ではありません。途上国では、トイレなどの衛生設備が整っている学校や家庭はごく一部であり、教育・保健サービスも十分とはいえないのが現実です。そんな同世代の子どもたちのためにできることとは…？

青少年赤十字では「子どもたちが自分のお小遣いの中から出せる金額で奉仕をしよう」と、平成16年より〝1円玉募金〟※を活用した事業を開始しました。その募金はどのように届き、現地ではどのような支援が行われているのでしょうか？

1円玉募金のゆくえを、ネパールで行った青少年赤十字教育等支援事業を参考に紹介します。

※1円玉募金の開始は昭和34年。教育等支援事業の開始が平成16年です。

現地のニーズ・価値観に寄り添った支援事業を展開

モノを贈るという形で支援することももちろん大切ですが、〝1円玉募金〟で支援することにより、募金の使い道を現地の学校の先生や地域住民、時には行政なども含めて話し合い、その国が本当に必要な形で活用してもらえることがポイントです。各国で行われている活動を、下記の図とあわせて確認しましょう。

ネパール

ネパールはヒマラヤ山脈を有する平地の少ない山岳の国。そのため上下水道など整備が遅れ、山間部の村々では十分な衛生環境を整えることが困難な状況が現在も続いています。結果、不衛生な飲料水やトイレの未整備を原因とする下痢症に悩まされ、5歳以下の乳幼児の死亡につながるという悲しい状況が続いていました。

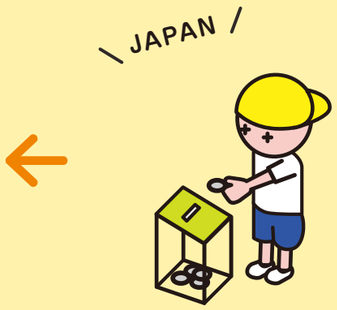
ネパールでも国を挙げて衛生への意識を高める取り組みを行っていますが、トイレを整備する資金は各家庭に委ねられ、なかなか普及に至らないのが現状です。

そこでネパール赤十字社では、日本からの〝1円玉募金〟を活用して学校にトイレや水道設備を整備。さらに、衛生に関する知識を身につけた青少年赤十字メ

1円玉募金のゆくえ in ネパール

International Friendship Project

日本国内の学校で1円玉募金を実施



日本国内の青少年赤十字メンバーがお小遣いを倹約するなどして集めたお金を地元の赤十字を通じて、海外に送金します。

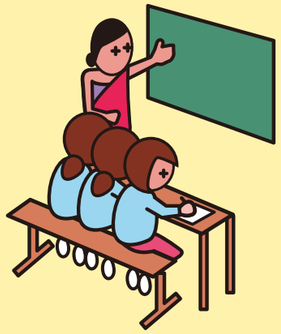
みんなが集めたお金を1円玉募金として寄付！

募金の使い道を現地のニーズに応じて工夫

日本から受け取った募金をもとに現地の赤十字スタッフが学校や地域の人々と話し合い、「学校や地域に何が必要か」を考えます。特に各地で改善が急がれる、学校の公衆衛生環境や教育面の支援を重視しています。

学校に着いたら、まず手洗い

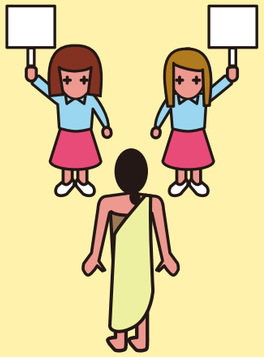
正しい知識を学び、学校内で広める



活動は、トイレや水道等の整備といったハード面だけに留まりません。講習を行い、手洗いの大切さなど衛生に関する知識を子どもたちが身につけ、同世代に対して広めるといったソフト面にも力を入れています。

授業で衛生に関する知識を学んでいます

子どもから家庭や地域コミュニティへ発信



学んだ知識は、子どもたちの家族や地域の人たちにも伝えます。「地域のトイレマップ」などを作り、トイレの普及を啓蒙するといった取り組みも。活動は表彰され、子どもたちも高い意識を持って取り組んでいます。

子どもたちが作成した「地域のトイレマップ」を確認する赤十字スタッフ。このマップに基づいて子どもたちは家庭訪問を行っています！

ンバーが、同世代の子どもたちに対して講習を実施したり、学校の周辺地域の家庭を定期的に訪問し、トイレの整備や手洗いの実践によって得られるメリットを含めて衛生知識の普及活動を行っています。

その結果、下痢症の発生が軽減し、5歳未満児の死亡率の減少に貢献という成果が生まれています。

モンゴル

夏の干ばつや冬の雪害など、気象災害が頻繁に生じるモンゴルでは、防災への対策が急がれています。

赤十字では、非常口プレートや非常灯の設置、家具の転倒防止など、学校内でできるところからの支援をスタート。防災に対する意識が学校内でも高まりました。

現在では国家危機管理庁と協同で、事業の対象である学校や地域と避難訓練等を行うなど、防災に関する知識の普及を図っています。

バングラデシュ

人口の1／3近くが低所得者であり、世界の中でも貧困が大きな課題であるバングラデシュ。教育を受けたくても中退し、働かなければいけない子どもたちが多くいるのが現状です。また、特に地方では、教育や保健サービスが十分に受けられないという課題もあります。

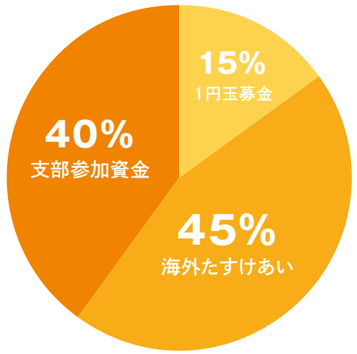
そこで、文具セットの配付や救急法の講習、手洗い実践のための設備・備品の設置などを進め、より多くの学校、より多くの子どもたちに普及しようと活動を進めています。

こういった支援事業を通じて「奉仕の心」を育むとともに、開発途上国の子どもたちを取り巻く問題を知ること、その問題解決に向けた取り組みを実施しています。

海外での青少年赤十字支援事業

青少年赤十字の実践目標のひとつ「国際理解・親善」の一環として、青少年赤十字メンバーが集めた青少年赤十字活動資金（通称：1円玉募金）を財源の一部とし、海外の青少年赤十字活動、学校の教育・衛生環境の改善等の支援を目的とした青少年赤十字教育等支援事業を平成16年から実施しています。第4次3か年の事業は、ネパール、モンゴル、バングラデシュの3か国を対象に、平成25年1月1日から平成27年12月31日まで実施されました。

事業の財源内訳

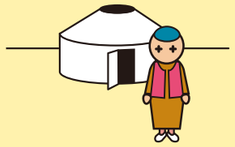


- 1円玉募金の収入は年間平均約570万円
- 毎年12月1日から25日間NHKと協同で実施している海外支援の寄付キャンペーンで集められる資金
- 日本赤十字社の各都道府県支部を対象として、海外の子どもたちの教育環境の改善や、学校を通じた保健衛生分野の社会ニーズに応えるために個人や企業から寄付された資金

平成28年度は、これまでの事業内容を見直し、今後の支援計画を立てる予定です。具体的には、日本での取り組み、またこれまでの支援事業の経験を活かし、平成29年度から防災と保健衛生の分野での青少年赤十字支援活動を行う予定としております。この1円玉募金で得られた活動資金を通じて、今後もアジアの青少年赤十字メンバーが直面している課題の解決に向けて取り組んでいきます。

※本データは、平成24～26年度に送金した金額の内訳です。

1円玉募金のゆくえ in モンゴル



防災意識向上のため避難訓練を実施

事業対象の8校すべてで災害時の避難計画を策定し、国家危機管理庁と協同で避難訓練を実施しました。地域住民とともに行うことで効果的な避難訓練に取り組んでいます。

健康・公衆衛生の知識を持つ子どもを養成

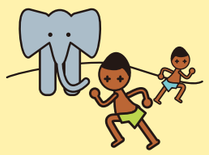
400名のピアエデュケーター※を養成し、手洗い慣行や公衆衛生教育を実施した結果、8,440名の児童生徒に知識を伝達できました。家庭やコミュニティへの普及も見られたり、高学年が低学年の模範となって手洗い慣習を拡大する仕組みが確立しました。

※ 同年代の子どもに対して、正しい知識や技術を発信する生徒

トイレ・洗面台など衛生環境を改善

事業対象の8校すべてにおいて、トイレ・洗面台など衛生環境を改善。事業終了後も公衆衛生環境持続のための取り組みを実施している学校が多く、A型肝炎や下痢症などの感染症の数が減少傾向にあります。

1円玉募金のゆくえ in バングラデシュ



文具セットの寄付で学習を応援！

貧困状態にある子どもたちの教育環境改善のため、貧困層の生徒を対象にノートや鉛筆などが入った文具セットを配付。生徒の就学意欲を維持することにも役立っています。

学校で同級生にフィードバック

各対象校の10名をリーダーとし、救急法の講習をしています。技術を習得したリーダーは自校の生徒にフィードバックを実施。3回の講習実施で合計150校、総勢111,199名の生徒に対して救急法の知識・技術を伝達することができました。

浄水装置設置と手洗い指導

事業対象の150校に浄水装置や手洗い用の設備・備品を整備しました。また、保健衛生に関する研修を受けたリーダーによるフィードバックや地域のボランティアのサポートにより、多くの生徒が正しい手洗いの方法を習得しています。

特集2

防災教育プログラム

子ども×防災

東日本大震災をはじめとする地震や津波、大雨や台風、火山噴火などの自然災害。そして、それらによって失われた、多くの尊い命……。
この事実を前にして、青少年赤十字が、今すべきこととは？
その答えを導き出したとき、私たちは「防災教育」にたどり着きました。
2015年のスタートから、多くの学校で導入されたのはもちろんのこと、企業とのコラボレーションなどでも活用されています。

児童・生徒が主体的に取り組むための、授業で使えるプログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」

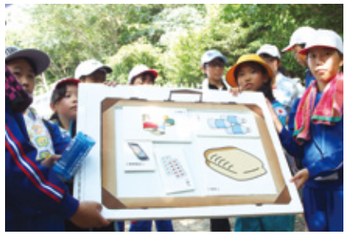
このプログラムは、地震災害、津波災害、風水害（台風・豪雨・雷・竜巻）、雪害、火山災害に対応。それぞれの自然災害について、子どもが発達段階に応じて適切に学べるよう、小学生用（1－3年／4－6年）、中学生・高校生用から構成されています。自然災害に向き合ってきた日本赤十字社と現場の教員が提案する“授業ですぐ使える防災教材”です。

香川県

異校種合同のトレセンにて教材に工夫を加えて活用

日赤香川県支部では、小・中・高校合同の夏のトレセンに「まもるいのち ひろめるぼうさい」を取り入れました。坂出市立加茂小学校の金関太郎先生は教材を手にし、まず表紙のデザインが気に入ったと言います。「昨今学校に送られてくる教材や資料集はPDFで配信され、教員自身がプリントアウトして活用するケースも多い中、この教材の洗練された装丁には〝本棚に眠ってしまうような教材は作らないぞ〟という製作側の熱意が伝わってきました」。

学校現場では各学校で検討された年間の教育計画があるため、年度途中で新たな活動を組み込むには難しい面も。そこで「まずは地元で毎年開催される青少年赤十字の小・中・高校生を対象としたプログラムで活用してみよう」と考えたそうです。「異校種で実践する場合、年長の中高生が主導権を握ってしまいがちですが、丁寧な振り返りを行うことですべての子どもたちに新しい気づきが生まれるかもしれません。指導者の使い勝手の良いよう自由にアレンジが出来るということも大きな利点でしょう。まずは実際に活用してみて〝気づき、考え、実行する〟を体感してみませんか」。



拡大コピーした図版をスチロールパネルに貼り、所持品のイラストを貼ったパネルの裏にマグネットを付け、自由に配置できるようにアレンジして活用

ペットボトルと水性マーカーで作った大きなペンで、全員で息を合わせて模造紙に図形や絵を描きます。コミュニケーションの大切さを実感!

坂出市立加茂小学校　金関太郎先生

兵庫県

「総合的な学習の時間」を利用して1学期間を通じ、計画的に学習

姫路市立安室東小学校では、5年生の2学期から総合的な学習の時間を利用し、防災教育に取り組んでいます。

同小学校の西谷彰大先生は、「従来は児童各々がWebなどで調べてまとめる作業でしたが、今年度から『まもるいのち ひろめるぼうさい』を導入し、授業とグループワークで発展的に学び、最終的に公開授業で保護者に発表するという計画にしました」と話します。本教材について西谷先生は「まず、児童の学年に応じて使うことができること。そして、指導案が資料として予め用意されていることも多忙な教員にとっては好都合ですし、子どもたちの身近に災害はあるのだという要素がちりばめられている点もよかったです。さらに、映像で見ることでより一層リアルに伝わってきました」と振り返ります。また、「授業で扱った資料を児童に配付して家に持ち帰らせているのですが、家庭でもこれを参照し、持ち出すものリストなどについて話し合ったりしてくれているようです」と、学校・家庭の両方で有意義に活用してくれていました。

公開授業での発表に向けて練習中!

様々な災害についてグループで画用紙にまとめます。

姫路市立安室東小学校　西谷彰大先生

特集2 防災教育

防災教育を取り入れたユニークな取り組み

いえまですごろく＆子ども新聞

45分で楽しく防災教育！学校現場で喜ばれる授業を発案

日赤愛知県支部で、ユニークな取り組みが行われています。関わっているのは、教員経験もある手島英樹さん。学校現場での経験から「先生たちが負担にならないものを」と、様々なアイデアを発案していることがポイントです。

「なるべく1時間（小学校45分／中・高校50分）で完結し、時間割変更や教科の授業時間をつぶさなくてよいものを」と、従来の防災教育プログラムをさらにアレンジ。加えて「いえまですごろく」や、朝日新聞社とコラボレーションした「子ども新聞」など、ユニークな取り組みを実施してきました。県内の小中学校には、積極的に講演会や出張授業を提供しています。

子どもが発信するから効果も大きい！

「防災教育は、子どもが勉強をして大人に伝えるのが最も効果的」と話す手島さん。「というのも、大人は〝やらなければいけない〟〝いつかやろう〟と思っていても、仕事や家事など他に意識がいき、なかなか着手できないケースもありますが、〝子どものために〟が行動のきっかけになる場合が多い」のだそう。

「この授業をきっかけとして、自分の家族、そして地域に防災を発信してもらいたいです。さらには、子どもが自分自身で命を守り、人を助けられるようになって欲しいと思います」。

災害時、無事に帰宅できるかな？ゲーム感覚で防災訓練ができる「いえまですごろく」

塾や公園、ショッピングセンター、駅など、家の外で一人で被災した際に、無事に自宅までたどり着けるかをすごろくを通して学ぶボードゲームが「いえまですごろく」です。

4～6人のプレイヤーでサイコロを振ってゴールを目指しますが、途中には「川で人が溺れている」「ケガをしてしまう」といったようなマスがあることがポイント。トラブルのマスに止まったときは、「大人を呼んでくる」「消火器を持ってきて使う」など、プレイヤー全員で手持ちのカードを使って問題を解決していきます。

ただ急いで家に帰るということだけでなく、自分で考える、またはみんなで考え、協力しながらゴールに進むことができる仕組みになっているのが特徴です。

日本赤十字社愛知県支部
事務局 事業部 青少年赤十字課
青少年係長 手島英樹（てしまひでき）さん

取材や執筆で記者体験！朝日新聞社の協力で「子ども新聞」を発行

愛知・岐阜・三重の青少年赤十字加盟小学校から子ども記者（小学6年生）を募り、新聞記者から取材方法や記事の書き方などの指導を受けた後、被災地で取材を行い、彼ら自身の手で新聞記事を執筆し、三県の小学校の3～6年生に35万部お届けしているのが「子ども新聞」です。この新聞を使った授業も行われています。

現場の先生の声

来るかもしれない大地震に備えて、学校でできることを

近い将来、高い確率で発生が予想されている「南海トラフ大地震」。愛知県では、震度6以上の揺れが起きると予測されています。そして、弥富市立十四山東部小学校のある弥富地区は、海抜0メートルといわれる低地が広がっており、液状化現象の危険性もあります。そんな中でどのように防災教育に力を入れたらいいか。

愛知県青少年赤十字指導者講習会に参加した際、この「いえまですごろく」を体験し、学校現場での防災教育に取り入れたいと考えました。

生徒の興味・関心を高めるすごろくゲーム

これまで、「まもるいのち ひろめるぼうさい」などの教材を用いながら、グループワークを中心とした防災の授業を何度か行ってきました。

今回は、すごろくというバーチャルなものですが、「もし外にいるとき、被災したらどうやって家に帰る?家族と会える?」ということを、子どもたちが遊びを通しながら、よりリアルに感じることができたと思っています。一連の防災教育を通して段階的に危機感を高め、それを家族や兄弟姉妹、周囲の人に伝えられるようになってもらいたいと考えます。

愛知県弥富市立十四山東部小学校
伊藤真生先生

防災×design
「いえまですごろく」わたしたちが作りました

yamory代表
岡本ナオトさん

若い人は体力も判断力もある。でも、残念ながら防災に関する意識は低い…。
そこで、防災に関する企画や商品を開発している我々yamoryは、デザイン性が高く、商品力のあるものを生み出すことで、防災に取り組むことが「オシャレ」「カッコイイ」「楽しそう」などという感覚を若い人に持ってもらい、積極的に防災活動に参加してもらいたいと考えています。

yamoryデザイナー
本多由季さん

美大で学んでいることを、人の役に立てたい。そんなときに思いついたのが「いえまですごろく」です。
日赤愛知県支部の方々のアドバイスを頂きながら、子どもたちに使ってもらえるようにアレンジしました。
実際に学校で楽しそうにすごろくをしてくれているのを見て、遊びながら学んでもらえていることを嬉しく思っています。

「いえまですごろく」は2016年3月より商品化されます。詳しくはyamoryのHPより　http://yamorybosai.com/

赤十字×気象庁 防災教育タッグチーム!

皆さんは、日本赤十字社と気象庁がタッグを組んで、防災教育や防災啓発活動に取り組んでいることをご存知ですか?

両者間では「防災教育の普及等の協力に関する協定」を結び、全国各地で互いの強みを活かした防災啓発活動を実施しています。先日開催した気象キャスター向けの勉強会では、「まもるいのち ひろめるぼうさい」の中から防災コミュニケーションワークショップ「ドローイング・チャレンジ」を体験しました。参加者全員でワイワイ楽しみながら、災害時のコミュニケーションの大切さを学ぶというプログラムは気象庁にはない切り口で、一緒に防災教育に取り組めることを改めて心強く思いました。

気象庁でも、大雨時における適切な行動を学ぶ「気象庁ワークショップ」などの防災教育プログラムを開発・公開しています。これらのプログラムが学校、地域社会や企業に広まり、社会全体の防災リテラシーが向上していくよう、今後も日本赤十字社のご協力をいただいて精力的に活動していきたいと思います。

気象庁総務部情報利用推進課
安全教育支援係長　松尾篤

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society × 教育委員会

県内の学校で防災意識の向上に活用

千葉県では、教育振興基本計画「新みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」を策定し、平成27年度から5か年計画で取り組んでいます。計画の中で「安全・安心な学びの場づくりの推進」を施策の1つとして掲げています。この施策の中では、子どもたちの防災意識を高めるための取り組みの充実を図るとともに、日本赤十字社などの団体と連携し、防災活動やボランティア活動に取り組んでいくこととしています。

今年度は教員向けの研修等で、「まもるいのち ひろめるぼうさい」の活用方法を中心とした内容を構成し、日本赤十字社の職員によるグループワークの手法を用いた実践的な内容の研修を行いました。

「まもるいのち ひろめるぼうさい」は、小学校、中学校、高等学校など、様々な校種での防災教育に対応している点が非常に優れています。今後も各学校での活用を図るよう働きかけるとともに、実践事例を紹介するなどして、広く普及を図っていきたいと考えています。

千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課
学校危機管理担当　飯田竜也

＼群馬県・館林地区／

宿泊しない 1日トレセン

本来は2泊3日や3泊4日などで開催するのが
青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(通称:トレセン)です。
群馬県・館林地区では「1日トレセン」として、
宿泊を伴わないプログラムにて活動を実施しました。
1日トレセンは、どのようなスケジュールで進められたのか?
また、課題や反省は?その内容を紹介します。

館林市立第一中学校
亀井章央(かめい あきひさ)先生

1 1日トレセンを開催した理由

泊をともなう活動よりも1日で終わる方が、敷居が低いからです。部活動などで多忙な生徒の参加を促すためにも、また、職員も部活動を抱えていたり、他の業務も抱えていたりするため、泊をともなうような時間を作りづらくなってきていることも挙げられます。

2 トレセンの内容を1日に凝縮する上で大変だったこと

2泊3日の内容をそのまま広く浅く学ぶことより、「1つのテーマのもとに濃密な」時間を過ごせる工夫が生徒の「経験をともなった学び」になると考え、青少年赤十字の実践目標である「奉仕」に目を向けて活動プログラムを練りました。

3 1日トレセン後、生徒の変化や成長の様子

参加した生徒は、学級の中で様々な活動に積極的に取り組むようになったり、各部活のリーダーとして自らが先頭に立って活動するようになったように感じます。

1日トレセン タイムテーブル

08:00 受付

09:00 グループごとに自己紹介

10:00 赤十字について
赤十字の成り立ちと、主に「奉仕」について学習する時間

10:30 ハンドケア体験
リラクゼーションについて学ぶ

11:20 グループワーク
グループに分かれて介護施設に赴き、何ができるか考えます。

12:00 昼食・準備

13:15 介護施設訪問・活動

15:00 学校に戻り、振り返り・まとめ

16:00 まとめの発表

17:00 閉会

Point
日赤群馬県支部からハンドケア講師を呼んで「生徒が本物に触れる時間」を確保し、なおかつ生徒の能動的な活動に繋がるよう、教師がコーディネーターとして補助する体制に。

支部の方を招き、ハンドケアやリラクゼーションについて学びました。

Point
1日で問題提起まではできないので、あらかじめ施設側から「奉仕活動」につながるような問題を挙げてもらっておく。

「気持ちいい」「ありがとう」の言葉がやりがいに

Point
年代の離れた地域のお年寄りと生徒が関わることで、生徒もお年寄りも笑顔になることができた。

活動を振り返り、学びや気づきを発表

1日トレセンを開催してみて、新たに感じた課題や反省

「赤十字について」の学習などは各校で事前に行っておき、他の活動を入れられればもっと充実させることができたと思います。
例えば、コミュニケーション能力を育んだり、生徒同士がアイスブレイクしたりするような活動は必要であると実感しました。
今後は、どのようにしてグループの中の活動を活発にさせるかを考えていきたいです。

＼導入してみよう!グループワーク／

元校長先生に聞く グループワークの実践ノウハウ

生徒児童が互いに影響を受け、考えを深めるのに有効なグループワークですが「取り入れるのが難しい」など悩みを持つ先生も少なくありません。そこで、元中学校校長である稲積修さんに、グループワークの理論をクラス運営に生かすうえでのポイントをお伺いしました。

日本赤十字社千葉県支部
指導講師　稲積修(いなづみおさむ)さん

稲積講師が考える グループワークのメリットとは?

教科はレクチャーが多くなりがちですが、グループワークは単に学習内容がわかるだけでなく仲間との活動を通して理解を確かなものにできる点が魅力です。ホームルームや行事・学級活動では、様々な活動を通して自他の自己実現を図っていくこともできます。

学校でグループワークを行う際重視したことは何ですか?

生徒が「やらされている」という意識を持つのではなく、「やってみよう」という意欲を持たせる工夫が重要だと考えます。1学期に1回程度、LHRの時間を利用して、意図的にグループワークを実施し、自己理解や他者理解、協力や協働の大切さなどに気づくようにしていました。

活動後、児童生徒の変化や成長はありましたか?

司会や進行も生徒同士で決めるなど、受け身・指示待ちの姿は徐々に消え、積極的になります。文化祭の取り組みでは「私たちが決めてやりますから先生は見ていて下さい」と言われたこともありましたね。意欲を引出し、グループ(協力)体験を積むと生徒は素晴らしい力を発揮します。

グループワークでの教育活動を行う先生方にメッセージをお願いします!

グループワークは児童生徒が関係的存在として共に学び、共によりよく生きることを学ぶ手段です。グループワーク・トレーニング実例集も出版されていますので、ぜひ参考になさってください。先生自身の教育観を確立し、児童生徒の豊かな成長を導かれることを願っています。

Special Interview

女優 石原さとみ

2015年3月に公開された映画『風に立つライオン』で、看護師を熱演された石原さとみさん。石原さん自身、撮影時に赤十字病院の現役医師による医療の技術指導などをうけました。アフリカでのロケで「人生観が変わった」という石原さんに、現地で感じた想いや女優という職業について語っていただきました。

とにかく好奇心が旺盛 楽器やダンス、スポーツにチャレンジする子どもでした

お琴、クラシックバレエ、ダンス、ピアノ、クラリネット、トランペット、スポーツ↘ならバレーボール、バスケ、テニス……。これ、全部私が子どもの頃にやっていた習い事です。好奇心が旺盛で、色々なことをやってみたいという気持ちの強い子どもでした。ラジオを聴くことも好きだったので、将来の夢はラジオパーソナリティ。女優さんもラジオで番組を持っていたりするので「女優になればラジオができるのかな」なんて考え、中学時代は食い入るようにドラマを見ていました。そういった全てが、今の自分に繋がっているのだなと思います。

人に、そして命に寄り添う看護師はとても尊い仕事

これまで様々な役に挑戦してきましたが、忘れられないのは何度か演じてきたナースの役。命に寄り添うという他にはないやりがいのある仕事を本当に尊く感じたんです。

そして、2015年に映画『風に立つライオン』で、アフリカで働く看護師を演じました。初のアフリカロケでは、壮大な自然に圧倒されたり、現地の実情を知ったり……様々なものに触れ、人生観が大きく変わりました。帰りの飛行機で「私はなんて無力なのだろう」と涙がボロボロこぼれてきて……。同時に、私にできることをしたい、自分が変われば相手も変わるし、それがいずれ世界を変えるひとつの種になる。そんな風に思って、日々の言動ひとつひとつを大切にするようになりました。

自分の弱さや苦手なこと全てを含めて「人間力」だと思う

女優としても、一人の人間としても、人間力の高い人になりたいと考えています。共演したことのある俳優さんに「役者は、自分の中にあるものしか表現できない」と言われたことがあります。だからこそ、ありのままの自分が試されると思うんです。

仲のいい友人が看護師や教師をやっているのですが、自分の弱さまで赤裸々に見せられる人は、子どもや患者様に好かれているなと感じます。

学生時代から付き合いがある友人たちとの時間は、私にとってかけがえのないもの。今でも会って相談したり、それぞれに目標を立てて伝え合ったりしています。私の目標は、本当にかけがえのない経験をさせてもらったアフリカに毎年行くことです。あの大地を何度でも踏みしめたいですね。

大切なのは、行動をして、何かしらの種をそこに植えること。どんな形であれ、きっと実となり、花が咲くと思います。これからも様々な繋がりを大切に、あらゆる場所や心に種を植える作業をし続けていきたいです。

※文中の写真は、NHKウガンダロケの一コマです。

出演作品

『風に立つライオン』

アフリカ・ケニアで国際医療活動に従事した実在の日本人医師・柴田紘一郎をモデルとし、さだまさしが「風に立つライオン」と題して1987年に楽曲・2013年に小説を発表。日本とケニアを結ぶ雄大なスケールの作品です。石原さんはケニアにある赤十字戦傷病院に赴任した看護師を演じています。

石原 さとみ

Ishihara Satomi

1986年東京都生まれ。ホリプロタレントスカウトキャラバン
ピュアガール2002グランプリ受賞を経て本格的に女優活動をスタート。
映画、テレビドラマ、舞台、CMなどで新人賞や最優秀助演女優賞など、受賞歴も多数。

JUNIOR RED CROSS

各ブロックの取り組み × 読んで欲しいマンガ

日本縦断活動紹介

全国のJRC加盟校の中から、最新の取り組みをご紹介します。JRCを積極的に活用し、児童・生徒の温かな心を育んでいる6つの取り組みをヒントに、日頃のJRC活動や学校生活をますます充実させてください！

FUKUSHIMA
福島県

→ 三重県

私立 福島県磐城第一高等学校

「伝える」を模索する
―震災からつながる福島と三重の交流活動―

青少年赤十字スタディ・センターで出会ったJRC顧問石田享子先生と三重県立木本高等学校の松永麻奈さんの震災支援をきっかけとした交流活動が今もつながっています。この交流を通じて伝えたいことは、現在も誤解されることが少なくない福島の正確な情報を発信することと災害に備えることの大切さ。そして支援への感謝の気持ちです。

木本高校との交換アルバム

被災地以外では震災関連の情報は減少している中、木本高校に福島の現状が本当に伝わっているのか不安を感じることもあります。活動紹介のアルバムを送っているが、受け取った相手が何を思い、感じているかを把握できていないこともあり、自分たちの思いが一方通行のままになっているかもという不安もあったり…。

これからは、自分たちが「レスポンス」を求めていることを伝えたい。そこから新たな「気づき」を発見したいと思っています。

自分たちに出来ることは、ハンドベル演奏やバルーンアート等の活動を通じて、福島の今を継続して伝えていくこと。これからもこの想いを忘れずに、交流活動を続けていきたいです。どんなことがあっても、木本高校は福島を応援してくれる、本当の福島を三重県で発信してくれると信じています。

根本麻耶（ねもとまや）・鈴木芙美香（すずきふみか）・宮﨑愛凜（みやざきあいり）・櫻井聖来（さくらいせいら）

石田享子（いしだたかこ）先生

読んで欲しい！ おすすめマンガ

『天上の虹』 里中満智子（著）／講談社

飛鳥時代の女帝・持統天皇の生涯をドラマチックに描いた大河歴史ロマン。皇族や豪族たちの恋愛ストーリーをフィクションを交えて描く少女漫画の一面に加え、万葉の歌人も多く出てくるため、日本史の学習にもなる学習漫画でもあります。

©里中 満智子／講談社

TOKYO
東京都

墨田区立 両国中学校（りょうごく）

輪湖（わこ）みちよ 先生

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、ボランティア教育・国際理解学習の一環として2014年度JRCに加盟しました。以前からあいさつ運動・地域清掃などの活動を行っていたこともあり、今年度発足したボランティア部の活動にも主体的に参加する生徒は多いです。「地域のためになる活動がしたい」「人とふれあう活動がしたい」「災害時に助けられる人になりたい」など、生徒の想いが様々な活動につながっていきました。

生徒の気づきが次の活動に。
JRCで世界に羽ばたく両中生！！

花壇作り、企業と連携した歯ブラシリサイクル活動、東北と東京の学校が協力して実施した被災地復興支援のチャリティーリレーマラソン・募金活動、児童館訪問、平和学習、防災学習…。さらには、JRCの三首都交流事業（東京・北京・ソウル）に参加した生徒もいます。活動のたびに、ボランティアを行う自分こそが力をもらっていると気づく生徒が増えていき、活動は広がり続けています。

現在は、世界の子どものためになる活動を考え中です。その第一弾として、歯ブラシリサイクル活動により得たポイントを換金してJRCに寄付を行い、日本赤十字社が行う海外での教育等支援事業に協力します。「人のため」「世の中のため」「自分のため」に、両国中学校ボランティア部は活動を広げていきます！

©Hiromu Arakawa /SQUARE ENIX

読んで欲しい！ おすすめマンガ

『鋼の錬金術師』 荒川弘（著）／スクウェア・エニックス

過酷な運命に立ち向かう兄弟の互いを思いやる心、それを支える周囲の人々の思いを描く。「逆境にあっても、最後の最後まであきらめずに自分で考え、決断した行動をすることが、自分だけでなく周りの人々のためにもなる。そんなことに気づくマンガです」（輪湖先生）

MIE
三重県

→ 福島県

三重県立 木本高等学校（きのもと）

福島県・三重県交流活動について

私たちはこの夏、2度目の福島訪問を予定しています。震災から5年、福島の現状を自分達の目で確かめ正しい情報を多くの人に伝えると共に、一人一人の防災意識を高める活動も続けて行きたいです。先輩達の活動から繋がった両県の交流は、今後も後輩に繋げていきます。

津本幸太（つもとこうた）

悲しい出来事が繋いでくれた福島と三重の絆

震災から5年、本当の福島を伝えて欲しいという福島メンバーの思いを胸に、多くの人に伝える活動を続けてきました。人との出会いに感謝し、人と人との繋がりの素晴らしさを肌で感じた活動であると思います。JRC活動を通して成長していく生徒たちの姿に感動の毎日です。

久保彩子（くぼあやこ）先生

JRC活動や生徒の姿勢から学ぶ日々

福島県の高校生や三重県の先輩達の想いを、自分達がしっかり受け止め、発信していく。離れた場所の事でも真剣に考え、自分に出来る事を実行する。そんな姿勢を大切にしてほしいと見守りながら、私自身もこの活動から沢山学ばせていただいています。

川上真由子（かわかみまゆこ）先生

© きら／集英社

読んで欲しい！ おすすめマンガ

『まっすぐにいこう。』 きら（著）／集英社

純粋な男女＋愛犬「マメタロウ」のトライアングル恋模様を描いたストーリー。作品の中でナレーター役を務めるマメタロウの可愛さに「もしかしたらうちの犬も、こんなことを考えているのかも」と心が温かくなります。（川上先生）
第4回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞。

KUMAMOTO
熊本県

菊池市立 花房小学校

藤本祥太 先生

身近な友達、そして世界にも目を向け広い視野を持とう！

こんなに素晴らしいことをしていた、一生懸命頑張っていた。そんな友達を見つけたら、その内容を花びらや星形に切った紙に書いて綺麗なツリーや星空を作り上げるように貼っていく、という活動を行っています。

この活動は児童が互いに認め合うことができるようになることはもちろんですが、自分以外の周りのことに目を向け「気付く力」を育むこともできます。称えられた児童はもちろん、気付いた児童の意識の向上にもつながります。

実践目標の1つである「国際理解・親善」には特に力を入れています。広く世界のことを知り、仲良く助け合う精神を養うことを目的として、カンボジアを支援するお米の栽培に取り組んでいます。まずは支援する国を知るために、カンボジアをはじめ世界各国の食料事情等について調べ、外部講師を招いて話を聞く事前活動を実施。その後、田植えや稲刈りを地域の方々に協力していただきながら栽培し、2月にはカンボジアに向けての発送式も行っています。この活動をとおして、地域の方々や世界の国々とのつながりを体感でき、国内外問わず幅広い視野をもち、また様々なことに関心を向ける児童が増えました。

© 井上雄彦
I.T.Planning,Inc.／集英社

読んで欲しい！
おすすめマンガ

『スラムダンク』 井上雄彦(著)／集英社

バスケットボールというスポーツを通して、一人一人の内面にも焦点を当てながら、あくなき挑戦を続ける選手たち、そして、それを支える周りの人たちの存在の大きさも描かれています。「“あきらめたら、そこで試合終了だよ”という安西先生の熱い言葉には、今後の生き方に強く影響を受ける子どもたちも多いようです」（藤本先生）

KYOTO
京都府

京都市立 開智幼稚園

芝井豊明 先生

京都市には市立幼稚園が16園あります。一昨年その16園がそろって青少年赤十字に加盟しました。京都市立幼稚園では他校種の子どもたちや教職員との連携・交流を進めており、青少年赤十字教育の分野でもその活動を広げられると考えたことがきっかけでした。普段の保育の中でも、手洗い・うがい・歯磨き・身体を動かして遊ぶこと、お弁当をみんなで楽しく食べること、熱中症対策・感染症予防など、青少年赤十字の態度目標の一つである「健康・安全」に結びつけて取り組んでいます。

「ぞうさんプロジェクト」で、ラオスに学校を作ろう！

昨年、京都市動物園にラオス人民民主共和国から4頭の子象がやってきました。各園の子どもたちと動物園へ出かけると、みんな大喜び！その一方、ラオスではまだまだ学校が不足しているということを知りました。象のお礼に自分たちでできることは無いかと考えた結果、幼稚園だけでなく京都市内の学校とともに校種や公立・私立の枠を超えた取り組みとして「ぞうさんプロジェクト」と称した募金活動をスタートしました。

幼稚園の子どもたちには、はるか外国のことですが、お友達のことを思い浮かべながらの取り組みになったかと思います。幼児なりに「国際理解・親善」について気づいたり考えたりするひとつのきっかけになったことでしょう。

©荒川弘／小学館

読んで欲しい！
おすすめマンガ

『銀の匙 Silver Spoon』 荒川弘(著)／小学館

農業高校に入学した主人公の汗と涙と泥まみれの酪農青春グラフィティ。「野菜や果物、家畜の生命、生産者の苦悩などについての正解のない問いを投げかけられ“いただきます”の重さ・大きさを改めて考えさせられる作品です」（芝井先生）

KOCHI
高知県

高知県立 盲学校

大久保充 先生

本校は、高知県下で唯一、視覚に障害がある幼児児童生徒のための学校です。教育目標の一つとして「理療業による職業自立を目指し、県民の健康増進に貢献できる人材を育成する」を掲げ、視覚障害教育を行う県内唯一の学校として、視覚障害者の職業自立の支援とともに地域貢献を目標として教育活動を実践しています。高等部では、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を養成する職業教育も行っています。

地域に根差した治療奉仕活動
―治療師の育成につなげる―

実践力の向上を目指し、本校設置の治療室で外来の患者さんの治療を行うほか、校外の施設へ生徒が出向いて患者さんを治療するという取り組みも行っています。この活動を支えてくれているのは日赤高知県支部です。地域の赤十字奉仕団の方が患者さんの募集や治療する場所の確保から、送迎車の配備まで協力してくださっているおかげで、視覚障害を有する生徒並びに引率教員は移動に困難を感じることもなく治療を行う地域の施設まで行き、安全かつ安心な環境で治療を行うことができています。

治療を受けた患者さんからは「気持ちよかった」、「楽になりました」などのお言葉をいただくことができ、生徒はやりがいを感じながら治療を行っています。

© 藤子プロ／小学館

読んで欲しい！
おすすめマンガ

『ドラえもん』 藤子・F・不二雄(著)／小学館

ご存じ、22世紀の未来からやってきたネコ型ロボット「ドラえもん」と、ドジで冴えない小学生「野比のび太」の日常生活を描いたストーリーが世代を超えて大人気の作品。四次元ポケットから取りだされる不思議な道具が夢と希望を与えてくれます。

Column

『戦争と国際人道法』に託した思い

出口の見えない「テロとの戦争」に世界は揺れている。
歴史家は20世紀を「戦争の世紀」と呼んだが、
21世紀は出口の見えない「新たな戦争の世紀」となるのだろうか。
テロとの戦争が始まった2001年からの10年で死亡した兵士は23万、
民間人は14万に達する。人類の脅威の中でも戦争が最も悲惨な理由は、
その犠牲者数が自然災害を遥かに凌ぐだけでなく、
それが人間の憎しみや敵愾心から生みだされる「殺し合い」だからである。
こうした戦争の犠牲を減らそうと19世紀中頃に誕生したのが
国際人道法の魁となるジュネーブ条約である。
それは国家だけでなくあらゆる戦争当事者が守るべき戦争のルールであるが、
今日の「テロとの戦争」では、その多くが守られることなく暴力の連鎖が続く。
また、新たな戦争手段としてのサイバー戦争の脅威など、
今日ほど国際人道法が新たな試練に直面している時代はない。
戦争と国際人道法の歴史は、同時に戦争犠牲者の保護救済のために戦ってきた
赤十字の歴史でもある。

本書で描いたのは、戦争の悲惨さと闘う赤十字とその英知の結晶ともいえる
国際人道法の系譜である。
一方で、世界的な「テロとの戦い」の最終的解決のためには、
差別や偏見がなく誰もが等しく豊かさにあずかれる世界の実現を目指す以外にない。
その他方で、法としての国際人道法の限界を補うのは、
本書で言及したように最終的には人間の人道心や良心以外には
ないのではないだろうか。
起源をたどれば、青少年赤十字は第一次世界大戦の悲惨な経験から
「新しい平和の文明の備えをするために」
「平和の理想、友好的な扶助の精神の涵養と維持」を
子どもたちに教え込むことを目的に20世紀初頭に組織された。
だとしたら、異なる文化、宗教への偏見、差別、憎しみが渦巻く現代にこそ、
青少年赤十字が、未来を担う青少年に融和の精神をはぐくむことは
重大な使命であるように思う。

井上忠男（いのうえ ただお）　日本赤十字国際人道研究センター所長

『戦争と国際人道法－その歴史と赤十字のあゆみ』
井上忠男 著
株式会社 東信堂／2,400円+税

2016.4.1 No.164
青少年赤十字指導情報

編集担当者から

防災教育に対する学校現場からの関心は、年々高まっています。防災教育教材『まもるいのち ひろめるぼうさい』についても「各学年・各学級に1冊ずつ欲しい」と、追加の配付を望む声も数多く頂戴しております。また、海外の赤十字ボランティアからは「災害への備えはもちろんのこと、コミュニケーション能力の向上にも最適な教材だ」と、嬉しい反応をいただきました。今後もそういった皆さまの声を励みに、青少年赤十字活動がより一層充実するよう取り組んでまいります。

最後に今号の刊行にあたりご協力いただきましたすべての皆様へ、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

COVER-2：Fukushima
福島県 磐城第一高等学校
石田享子（いしだ たかこ）先生、根本麻耶（ねもと まや）、鈴木芙美香（すずき ふみか）
宮﨑愛凜（みやざき あいり）、櫻井聖来（さくらい せいら）

青少年赤十字（JRC）とは

はじまり

子どもたちの「気づき」をきっかけに

第一次世界大戦の時、カナダ、アメリカ、オーストラリア、イタリアの学校の生徒と先生は、戦争で苦しむヨーロッパの人々をなぐさめ励ますため、手紙やプレゼントなどを赤十字を通じて届けました。
これがきっかけとなり、青少年赤十字が誕生することとなります。

人道的な価値観を世界の子どもたちへ

赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人間に成長してほしいという願いから、赤十字社連盟（現在の国際赤十字・赤新月社連盟）は1922年に青少年赤十字を創設することを決めました。
日本の青少年赤十字は、1922年に滋賀県の守山尋常高等小学校（現在の守山市立守山小学校）に誕生した「少年赤十字」から数えて90年以上の長い歴史をもっています。

青少年赤十字が大切にしていること

青少年赤十字の実践目標

- **健康・安全**
  生命と健康を大切にする
- **奉仕**
  人間として社会のため、人のために尽くす責任を自覚し、実行する
- **国際理解・親善**
  広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う

青少年赤十字の態度目標

- **気づき**
  身近な問題を発見する
- **考え**
  問題解決のための道筋や方法を探る
- **実行する**
  活動に取り組み、評価と反省を次へ活かす

青少年赤十字の導入・活用のメリット

赤十字を教材に、「生きる力」を育てる

青少年赤十字の活動は、子どもたちの思考力・判断力・表現力を養うとともに、コミュニケーション能力や言語活動の充実を期待できます。
赤十字には、人間の命と健康、尊厳を守るために世界中で活動する中で得た経験やネットワークなどがあります。赤十字そのものを「教材」として、存分にご活用ください。

加盟校数 **1万3,690校**　　メンバー数 **321万3,573人**

加盟校数・メンバー数ともに2015年3月現在

全国47都道府県のすべてにある日本赤十字社の支部が、教育現場での青少年赤十字活動を、ご要望に応じてきめ細かくサポートします。加盟登録の方法や、各種教材の貸出し、講師の派遣などに関する詳細をご希望の場合は、お近くの支部の青少年赤十字担当者へお気軽にお問い合わせください！

日本赤十字社（都道府県名）支部　検索

『青少年赤十字指導情報』は、日本赤十字社のホームページからダウンロードすることもできます。
http://www.jrc.or.jp/activity/youth/document/

青少年赤十字の目的やメリットを詳しく紹介しているパンフレット。
（日本赤十字社福岡県支部の例）